

| 課程 | 学習活動と内容 | 指導上の留意点・支援 生徒のエンゲージメントを高める工夫・手法 | 3観点の評価 / ICT活用教育の観点 アクティブ・ラーニングの手法 (育成したい人間力の観点など) |
|--------------|---|--|---|
| 【導入】 10分 | 確認テストの実施（解答回収） 内容： 「進行形にできる動詞」と「進行形にできない動詞」の識別を徹底する。 *なぜその答になるのかを自分の言葉で説明する。 | ・椅子の座り方等の注意 ・生徒の発問をしっかりと聴き、つまずきの程度を確認する。 ☆ 構造化 ¹ | ・パワーポイントの活用 ・プリントの配布 ☆ Think-Pair Share ² ～シンク=ペア=シェア～ 評価の観点（1） 評価の観点（2） |
| 【展開1】 15分 | 現在進行形の3文（肯定文・疑問文・否定文）を区別できる。 学習課題①（復習） 現在進行形の肯定文を否定文、疑問文に書き換えることができる。また、その規則性を自分でまとめ、発表することができる。（ICTを使用する：アプリ「idea share」） 肯定文から疑問文、否定文を素早く正確に解く事ができる。 ・【導入】で実施した小テストの解答用紙（結果記入済み）に、【展開1】のテスト結果（点数など全て記入済み）も回収する。その後、評価の際に使用する。 | ・一人一人が前のプロジェクターに意識を向ける。 ・現在進行形の肯定文を、疑問文・否定文にする。（前時の復習） ・ノートをしっかりとしているか確認し、とれていない生徒に対してはフォローをする。（支援） ・「聞く部分」と「解く部分」をきちんと分ける。 ・問題の意図（be動詞や～ingの欠落など）を見抜く。 ・3種類の文を理解し区別できる。（理解） ・疑問詞を含む疑問文が出題された場合に適切な答え方ができる。また、その答え方も適当である。 ☆ インタラクティブな講義 ³ ☆ 自律性支援 ⁴ | ・パワーポイントの活用（画面の見やすさに注意） ・生徒の発問を活かす ・内容をまとめる力（ノートの取り方） ☆ Peer Instruction ⁵ ～ピア・インストラクション～ (人間力の観点) ・論理的思考力 ・受容力 ・持続力 ・自己コントロール力 ・経験力 ☆ Stations ⁶ ～ステーション～ 評価の観点（2） 評価の観点（3） |
| 【展開2】 22分 | 学習課題②（新出） 現在進行形を含む読解問題を解き、答の根拠まで明確にして他者に説明することができる（ICTを使用しない。口頭のみ。） ⇒ 個人で解く（7分） ⇒ 仲間と解く（7分） ⇒ クラスに発表（8分） *留意点 ・問題の意図を読み解く。 ・英文読解を解くだけでなく、答の根拠まで導き出すことを強調する。 ・プリント（点数記入）を回収し、評価の際に使用する。 | ・机間巡視をし、生徒のつまずきを発見する。 ・グループワークの際、関係のない話は止めさせる。 ・しっかりと他人の話を聞いているか。（態度） ・生徒の意見を優先し、こちらの見解等は補助的とする。しかし、間違った答えの場合は訂正し、正解を導く。（表現） ☆ 学習環境の設定 ⁷ ☆ 個人ワークや協同学習 ⁸ ☆ 課題の設定 ⁹ | ・プリントの配布 (人間力の観点) ・論理的思考力 ・総合的な判断力 ・創造力 ・発想力 ・チャレンジ精神 ・共感的理解 ・プレゼンテーション力 ・リーダーシップ ・行動力 評価の観点（1） 評価の観点（2） |
| 【まとめ】 3分 | 本時のまとめ： 現在進行形の構造、疑問詞を含む疑問文についての理解を深め、応用問題や読解問題を解き知識の定着を図る。 | ・今まで学習した内容の応用であることを意識させる。（基礎力の徹底）。 ・応用問題への対応の仕方を確認する。 | 自立学習ノートを活用し、本時まで学習した「現在進行形」についての理解度を自己評価する。 (人間力の観点) なし |

1 モデルの提示、明確な説明や指示、思考のモデル化、学習活動のサポートやフォロー、振り返りと気づきを促すフィードバック、雰囲気づくり (Jang et al. 2010, Shernoff et al. 2014)

2 グループ技法の一つである。自分の考えを明確にし、他者の意見と対比しながら考えを深めていくのに有効である。また、クラス全体での討論の準備にもなる。①教員が全体に一つの質問をする（あるいは問題を出す）。②数分、個別に考える。③ペアを組んで互いに答を紹介し合う。違いがある場合にはそれぞれの根拠を明確にする。あるいは双方の意見を併せて一つの見解にすることを試みる。

3 頻繁な質問、5～10分の講義、テストやクイズの確認 (Shernoff 2013)

4 選択肢がある活動、決断の共有、コントロールされていないという感じ (Jang et al. 2010, Shernoff et al. 2014, Shernoff 2013)

5 ピア・インストラクションは、学生同士の議論を組み込んだアクティブラーニング型授業の一つである。ConceptTestと呼ばれる課題を出し、挙手（クリッカー）を使って個々の学生の理解度をはかるとともに、学生同士の議論を通じて深い理解を促す。また、講義を能動的に聴き、知識を深く理解して自分の考えを説明する力を身につける。

6 グループ技法：アクティブラーニング型授業の一つであり、新しい知識・教材の理解を促進する。その手法として、新出事項（知識・教材）を教室内に提示する（大型スクリーンを活用）。

7 座席の工夫、教師の感情のトーン (Shernoff et al. 2014, Shernoff 2013)

8 受動的ではない、仲間からの理解、クイズでの議論や批判 (Shernoff 2013, Guthrie & Wigfield, 2000; Meloth & Deering, 1994; Newmann, 1992)

9 簡単すぎない、目的のある活動、チャレンジングな活動、実世界との関わり、コラボレーション (Shernoff et al. 2014, Shernoff 2013, Fredrick et al., 2004)